

山形大学 YAMAGATA UNIVERSITY ALUMNI ASSOCIATION 校友会会報

13
MARCH 2019

第40回全国国公立大学空手道選手権大会(2018年11月)
空手道部女子チーム優勝!!

Contents

- 校友会 NEWS 2
山形大学校友会大学院学生表彰(校友会長賞)
高校生と大学生による地域の課題解決支援プログラム
公務員志望学生に特化したキャリア支援
山形大学駅伝競争大会への支援
- 平成30年度事業紹介 4
事業紹介と参加学生さんのコメント
- 事業に参加した学生さんからのメッセージ 6
- INFORMATION 8



劇団スピリッツ30周年記念公演「歌姫」
(2018年12月22日)

校友会とは…

校友会は、山形大学の全ての在學生と卒業生、役員、教職員、退職者等の会員(生涯会費10,000円)で構成され、山形大学の応援団として山形大学や山形大学の学生等を支援する全学的な組織として平成18年12月に設立されました。

| 校友会 | NEWS |

1 校友会大学院学生表彰 (校友会長賞)に12名の 大学院生が受賞しました。



授賞式の様子

校友会長賞は、今年度で5年目となり、これまで68名の大学院生の方が受賞されました。この賞は、各研究科に在籍する顕著な学術研究活動を行った大学院生を表彰し、研究意欲の向上と学術研究活動の更なる活性化を図ることを目的に平成26年度から実施しています。

選考は、各研究科長から「校友会大学院学生表彰に関する申合せ」に基づき推薦された優れた学術研究活動を行った大学院生を校友会専門委員会が審査し決定しています。

表彰式は、校友会理事会終了後に同理事の立ち会いの下で実施され、今年度は2月15日に校友会会長である小山清人学長から11名の大学院生(1名欠席)一人ひとりに表彰状と奨励記念品(5万円)が授与されました。

表彰状授与後、小山庄長から受賞された方々にお祝いとお礼の言葉を述べ、これからの益々の研鑽など激励の言葉がありました。これに対し、受賞者を代表し理工学研究科博士前期課程理学専攻の板谷昌輝さんと同研究科博士後期課程バイオ工学専攻の東海林由憲さんから受賞への謝意と喜び、これまで育ててくれた指導教員や研究室の関係者への感謝の言葉がありました。

表彰式終了後、学内の施設において校友会理事等懇談会が開催され、受賞された方々からそれぞれの研究成果等のスピーチが行われ、弛まぬ研究の遂行に対し参加者から盛大な拍手がありました。その後、受賞者と理事との活発な交流が行われ、懇談会は盛會裡に終了しました。

●平成30年度表彰された大学院生は次の方々です。

理工学研究科(理学系)	阿部 俊暉・板谷 昌輝
医学系研究科	豊島 拓
理工学研究科(工学系)	梅本 和輝・佐藤 浩美
	土屋みなみ・東海林由憲
有機材料システム研究科	山口 敬済
	齋藤 亜紀
農学研究科	飯島 信繁
	Putu Oki Bimantara 米田 一路



授賞者代表挨拶



懇談会の様子

2 高校生と大学生との 協働活動による地域の 課題解決を行いました。



参加者全員集合(農学部会場 11月23日)

平成30年度の校友会支援の新規事業として採択された「学生による地域の課題解決支援プログラム」事業を山形大学COC+推進室が校友会の支援を受けて、山形県教育委員会との連携事業として実施しました。山形県では高校卒業後の県外進学割合が非常に高く、少子高齢化が進む中、地域活性化を促進していくための大きな課題となっている。本事業では、地域に貢献できる人材を育成するために、大学生と大学進学を希望する普通科高校の生徒が協働で山形県の市や町が抱える地域の課題にアイデアを出し合い、課題解決の糸口を探る活動を行いました。

県内の庄内、最上、村山、置賜4地域で学ぶ高校生が参加しやすいように、山形大学の農学部、小白川及び工学部の各キャンパスを会場とし、山形大学の全学部の学生が会場となる3キャンパスに集うことにより県内或いは県内各地域の出身の大学生が地域の後輩に進学希望学部での学びや学生生活を伝えたり疑問に答えたりするとともに、協働で地域の課題に取り組みました。この活動では、大学生のキャンパス間の一体感の醸成に貢献できるだけではなく、大学生にはコミュニケーション能力やリーダーシップ等の社会人基礎力を高め、高校生には大学で学ぶことに対する興味や関心を深め、地域の大学への進学意欲を高める契機となることが期待できます。

農学部会場では、11月23日に農学部藤井弘志教授をファシリテーターとして、6学部9名の大学生と30名の高校生が、小白川会場では地域教育文化学部の三上英司教授、滝澤匡准教授がファシリテーターを務め26名の高校生と10名の大学生が、工学部会場では工学部立花和宏教授をファシリテーターとして4名の大学生と14名の高校生が共同で地域の課題を見つけ、その解決案を提案しました。参加した学生、生徒とともにそれぞれ大きな達成感や満足感を得ており、大学・高校側にとっても有意義な取り組みとなっています。



地域の課題確認
(小白川会場 12月23日)



希望学部の説明を聞く
(工学部会場 1月13日)

平成30年度に実施した事業の中から、新規或いは特徴ある4つの事業を紹介します。
在学生の活躍や県内高校生が参加しての地域課題解決など種々な事業を展開しています。

3 公務員志望学生に特化した「人物対策講座」を開催しました。



講座の様子

平成30年度の校友会支援の新規事業として採択された「地域の未来を担う公務員志望学生に特化した早期自己開発キャリア支援」事業を12月19日(水)に公務員志望学生に特化した講座として実施しました。

この講座は、地元への就職率向上を図るために、公務員志望者に対し「勉強ありきの公務志望」から「志望動機や将来の目標を明確に設定」する試験対策への転換とキャリアプランの具体化を支援するものです。

大学生協の公務員講座で人気の高い寺本康之先生を講師に迎え、学部3年生・大学院1年生109名参加しました。前半は、主に面接・集団討論・面接カードの書き方の3点について詳しく解説があり、面接に関しては、国家公務員と地方公務員、個別面接と集団面接の違いを様々な事例に基づいて解説を行い、集団討論においては、昨年度の山形県と山形市の問題を例に挙げながら、政策研究・自治体研究の重要性を強調しました。続いて、面接カードのよくある間違っただ用語の使い方や作成の上での注意点を職種別に解説し、先輩が実際に作成した面接カードを紹介しながら、良い点・悪い点を参加学生とともに確認しました。

後半は、本番の集団討論を想定し、10人1チームで「山形大学の志願者数を2倍にするにはどうしたらよいか!」というテーマでグループワークを行いました。初対面の人とのワークや抽象的なテーマに最初は困惑していましたが、グループ毎に個性が光るユニークな案が発表されました。

参加学生からは、「模試を直前に控える時期に二次試験(人物対策)の重要性を改めて再認識することができた」、「初対面の人と行うグループワークの難しさを痛感した」など様々な意見が出されました。

更に、受講後は面接カードの個別添削指導を受け、講座の内容を復習するとともに、プロからの評価が貰える貴重な機会となりました。



グループワークでの話し合い グループワーク後の発表の様子

4 第55回山形大学駅伝競走大会を開催しました。



選手宣誓

サークル単位やゼミ室単位で結成された男子5チームと女子2チームの合計7チームが参加し、山形大学開学記念日(10/15)に合わせて「第55回山形大学駅伝競走大会」を3年ぶりに開催しました。

開会式が近づくにつれ、会場には個性豊かな衣装を着た選手たちが次々と集まってきました。今年からパフォーマンス賞が追加されたため、順位だけではなくパフォーマンス賞を目指して「コスプレ」姿の選手が多く参加しました。

開会式では、選手たちを前に大会会長の安田弘法理事・副学長による激励の言葉や選手代表による選手宣誓が行われた後、選手たちはスタートラインにつきました。ほとんどの選手がコスプレをしていたため、応援に来た観客や学生役員もみんな笑いながらカメラやスマホで写真を撮っていました。

また、ゴール直前でコスプレに合ったBGMが流れるなど、学生役員が率先して雰囲気作りを行ったため、メンバー全員で手を繋いでゴール、或いは、アンカーを担いでゴールするなど様々なゴールシーンが見られ、会場は最後まで盛り上がりました。

大会結果は、男子チームは、「どうせオレらが1位なんだろう?」が1位となり、2位は「ちかん」、3位は「コスプレするなら心まで飾れ」でした。また、女子チームは「ササカヤスとオサ」が1位となり、2位が「のこりものには福がある!!」でした。パフォーマンス賞は、「コスプレするなら心まで飾れ」でした。入賞チームには閉会式で賞状と賞品が渡され、惜しくも入賞できなかった選手たちにも参加賞が渡され、駅伝競走大会は無事盛会に終了しました。

大会運営を手伝ってくれた学生役員の皆様にこの場を借りてお礼を申し上げます。



チーム全員でゴール

表彰式

校友会支援・主体事業の紹介

修学支援事業

山形美術館を活用した学生の学習支援事業

学生が授業の他、美術品や芸術品を鑑賞することにより幅広い教養と豊かな人間性を涵養することができるよう山形美術館のキャンパスメンバーズ制度に加入し、学生証提示による入場料無料化を実施しています。この事業は一昨年度から実施し、今年度は吉野石膏コレクションなど世界屈指の名画が展示され、1月までに延べ507名の利用者がありました。

今後も多くの学生に山形美術館を利用してもらい、芸術に触れていただきたいと思います。



参加学生さんのコメント

興味がある企画展が開催されているため山形美術館に行くことはありましたが、実際に職員の方のお話を聞くことは初めての経験でした。お話を聞くことにより如何に山形で文化を広め、かつ育むために事業を行ってきたかを学ぶことができ、貴重な体験となりました。



参加学生さんのコメント

海外での発表という貴重な経験をさせていただき本当にありがとうございました。このような機会を活かし挑戦する私の姿は研究室の後輩にとっても大変よい刺激となったようです。これからもこのようなご支援を継続していただけますと大変うれしく思います。

グローバル化支援事業

博士課程学生研究発表奨励事業

博士課程学生の研究活動を奨励するために、国際会議等で研究発表を行う学生に旅費及び滞在費の一部を支援しています。この事業はこれまで6年間実施し、今年度においては53名の大学院博士課程の学生に支援金を贈呈しました。

大学院生の皆さんがこれからも研鑽を積み、多くの方がこの支援事業を活用し国際学会で研究発表を行っていただきたいと思います。

課外活動支援事業

山形大学・米沢栄養大学・米沢女子短期大学雪合戦大会（旧山形大学雪合戦大会）

大会は、分散キャンパス間の学生交流を深め一体感を醸成するために米沢キャンパスで開催しています。

開催地の米沢には、米沢栄養大学と米沢女子短期大学もあるため、学園都市の地の利を生かし昨年度から3大学の大会になりました。今大会は10回目を迎え他キャンパスからの参加はありませんでしたが、米沢栄養大学と米沢女子短期大学からも1チームが参加し大激戦が繰り広げられました。

次年度は、小白川、飯田、鶴岡の各キャンパスからの参加を心よりお待ちしております。



参加学生さんのコメント

今回の雪合戦大会では、山形大学、米沢栄養大学、米沢女子短期大学の三大学合同で行われました。雪合戦のレベルが上がり、歓喜と興奮に満ちた試合が繰り広げられました。来年はさらに白熱した試合を期待しています。

平成30年度に実施した校友会支援及び校友会主体事業の一部を写真付きで紹介します。



参加学生さんのコメント

企業に直接アポイントを取る段階から実際に訪問してお話を聞くまで、終始緊張感がありました。働く方の生の声を聞くことで自分のキャリアについて考えるきっかけとなり、今後の進路選択に活かせる経験となりました。

就職活動支援事業

学生中心に行う優良企業訪問への支援

学生がキャリアサポーターとして地元及び首都圏の優良企業を選定し学生目線でのインタビュー取材を行い、Webや会社説明会では得られない貴重な情報を集めています。この情報は、就職活動中の学生やこれから始める学生にWebでの提供を行い、就職活動に役立てていただいています。

これからもこの支援事業を活用し、様々な業種の優良企業に関する情報を収集し就職活動を行う学生に提供していただきたいと思います。

大学・社会貢献活動支援事業

山大生による山形大学のための情報発信プロジェクト

入学志願者を確保するために現役学生による入試広報チームを結成しています。

具体的な活動として、バーチャルオープンキャンパスでは学生の一日の取材とウェブサイトの更新、オープンキャンパス、アカデミックキャンプ及びジュニアキャンパスではキャンパスライフの紹介や交流会の実施、大学案内では特集ページの企画・取材、学生の母校訪問ではキャンパスライフの紹介や受験勉強対策の説明など幅広く広報活動を行っていただいています。



参加学生さんのコメント

私は、今回大学案内2019で学生スナップ写真の撮影を担当しました。大学案内は沢山の方の協力で作っているものだと感じましたが、学生も関わることで、リアルな視点から山大の魅力が伝わるのではないかと思います。



参加学生さんのコメント

校友会幹事として校友会のPR活動だけでなく、各事業を学生の視点から企画してきました。学生生活を充実させるためのニーズを考え、企画することは自分自身の充実に繋がりました。

会員相互の交流支援事業

校友会「学生幹事」による校友会PRと自主的な活動支援

学生幹事は、今年度2年目となり、校友会Twitterでのつぶやき、山大生の活動支援プロジェクト・同成果発表会、八峰祭での芋煮ブース出店、Twitterフォロア数拡大に向けた新春プレゼント及び新入生へのキャンパスライフガイダンスなどの事業を自ら企画し実施しています。これらの企画は、校友会のPRのみならず、学生の地道な社会活動への支援や新入生へのサポートなど学生生活の充実に不可欠なものとなっています。

事業に参加した学生さんからのメッセージ

実践教育プログラム英語合宿

地域教育文化学部地域教育文化学科1年
長谷川 新菜 さん

まさに「英語漬け」の1泊2日を留学生や1年生の参加者と共に過ごしたことは、私にとって大変貴重な経験になりました。

英語合宿での最初の活動、アイスブレイクでは初対面の人も多く、緊張しながら英語で自己紹介をしたことを覚えています。また、留学生とのグループワークでは、日本の伝統行事や文化を英語で伝えなければならなかったのですが、自分の思っていることを英語にして話すことに苦勞し、自分の英語力の低さを痛感してしまいました。

アイスブレイク後は、ボードゲームを使ったグループワークをしました。それぞれのグループによって使用するボードゲームの種類が異なり、最初にグループメ



ボードゲームでグループワーク(右手前)

ンバーの留学生がボードゲームのルール説明をしてくれました。サイコロの使い方やアイテムを出すタイミングなど細かな設定の英語が分からないときは、グループの中で教え合ったためグループ内の繋がりが深まりました。英語に対する高い意識を持った同世代の参加者との交流は、大変刺激的で、今後の英語学習へのモチベーション向上に繋がりました。

2日目は、前日覚えたボードゲームのルールを別のグループの人達に説明するという企画で、制限時間内にすべてのルールとそのゲームの魅力を伝える行為は容易ではありませんでした。しかし、何度も説明していくうちに、ボードゲームをする上でキーワードとなる単語や動詞を徐々に覚え、スムーズに説明できるようになりました。

今回の英語合宿では、普段の教室での教科書や参考書を使って英語を勉強する方法とは異なり、ボードゲームやグループワークといった手法により英語を学ぶことはとても新鮮でした。英語が好きになり、もっと英語を話せるようになりたいという思いが更に強くなり、英語が必須の条件下で過ごした2日間はとても充実したものとなりました。

私は、英語を身近に感じるための最初の一步は英語合宿への参加でした。多くの方に参加していただき、グローバルな社会を感じて欲しい。



2日目のランチでのひととき

新興国学生大使派遣プログラム

人文学部法経政策学科4年
笹原 隆史 さん

これまで自分が如何に偏狭な見方をしていたのかを痛感させられた2週間でした。私が今回派遣先に選んだのは中華人民共和国延吉市にある延辺大学で、北朝鮮との国境に近い所です。中国や北朝鮮に対しては、ネガティブな感情を抱いている方が多いかもしれません。渡航前は周りの人に随分心配され、私自身も少なからず不安感を抱いていました。しかし、実際に現地に行ってみると、そのイメージは一瞬で崩れました。街の雰囲気も明るく、何よりも現地の学生が凄く親切で



日本語教室の様子

した。授業が終わると、クラスの皆からお菓子の詰め合わせをもらうこともあり。特に、仲良くなった友人がよく私を昼食や夜の飲み会に誘ってくれましたが、外出時は彼らが一緒のため犯罪に巻き込まれる心配もなく毎日がとても充実していました。

また、北朝鮮との国境付近に連れて行ってもらったときは、中国と北朝鮮との国境が川で隔てられているため、双眼鏡で対岸の北朝鮮の様子を見ることができました。そこに住む住民は今考えれば当然のことですが、自転車での移動や近隣

住民との立ち話など、私たちと同様の生活をしていました。

確かに、メディアが報じる中国や北朝鮮はネガティブな情報が多く、それが誤りだ

とは思わないが、全てではないということを私は学びました。その国のイメージが国民そのものとは限らないと感じたからです。

これらの学びは、スマホやテレビのみでは決して得られません。大学で留学生から様々な話を聴くことも有効な手段ですが、「百聞は一見にしかず!」であることを痛感しました。

このプログラムは、校友会を始め様々な支援を受け安価に留学体験ができるのが魅力です。私は、就職が決まっているため叶わないのですが、もし一年前にこのプログラムに参加していれば、留学という道を選んでいただいでしょう。まずは、このプログラムから最初の一步を踏み出して欲しい。日本という島国が私たちを偏狭にさせているのかもしれませんが。一度外へ出れば、きっと何か変わるはず。一度外へ出れば、きっと何か変わるはず。一度外へ出れば、きっと何か変わるはず。



北朝鮮国境付近(図門)

公認サークル支援

農学部食料生命環境学科2年
太田 実里さん

昨年、カナダで行われた世界ジュニアアルティメット選手権に参加してきました。アルティメットとは、フリスビーを使った競技で、コート両サイドにあるゴールゾーンまで落とさずにパスをつなげられたら得点でき、その得点を競い合うスポーツです。



香港との試合(白のユニフォーム)

大学に入学し、先輩達が優しいという理由でどんなスポーツかもよく判らず、アルティメットのサークルに入ったのが始めたきっかけでした。

やってみたら、あまりの面白さにのめり込んでいました。そんな中で、19歳以下の日本代表選考会があると聞き、全国の同世代の人達とやってみたくと思い参加しました。そこで、今まではただ楽しくてやっていたアルティメットでしたが、「考えてプレーする」ことを学び、益々アルティメットが好きになりました。選考会で日本代表に選抜された時は、嬉しい気持ちの反面、責任と自覚を持って行動しようと思いました。

世界大会までの半年間の間、8回の合宿に参加しました。序盤に怪我した膝の影響で思うようにプレーできず、焦って空回りしていた時期もありましたが、完治してからはがむしゃ

らに練習に取り組みました。合宿では、常に声を出して全力を出し切ることは誰にも負けまいにしました。そして迎えた世界大会では、13チーム中6位で上位リーグに進みましたが勝てませんでした。只、最後の5位決定のオランダ戦で相手にゴールゾーンまで攻められましたが、そこでディフェンスして取ったあの1点は忘れられません。コートに出ていた7人、コート外で声を出し続けた仲間、監督、コーチ、全員で取った1点だと思います。チームで勝つことの意味を知りました。

今回の活動を通して本当に多くの人に支えられ、アルティメットを全力で戦えた実感しました。特に、常に負けるもんか!と気持ちを高めあってきた仲間やいつもアドバイスをくれた先輩、支えてくれた友達、家族の存在に感謝しています。

この機会にアルティメットに興味を持ち、気軽に参加してもらえれば嬉しいです。あなたもアルティメットに魅了されること間違いなし!!!



開会式にてチーム結束の様子



円陣を組み、気合いを入れて試合に臨む!

学生によるキャリアCafé

理工学研究科 応用生命システム工学専攻1年
伊藤 光司さん

私は、山形県内企業に勤めている先輩方から直接お話を伺えると聞き、キャリアCaféに参加しました。なぜなら、県内に就職することや就活に対して不安を持っていたからです。

私は、2時間ほどで6社の先輩方とお話をさせて頂きました。実際に自分の興味がある業界に勤めている先輩と話すことで、調べてもわからない詳しい内容を聞くことができ、就活する上でとても参考になりました。また、多くの先輩方と話すことで、今まで知らなかった企業や業界に興味を持つきっかけとなり、就職に対しての視野が広がりました。加えて、多くの先輩方に就活に対する相談にのっていただき、アドバイスをもらうことで就活に対する不安が解消されました。

その中で最も印象に残ったアドバイスが、「実際に自分が企業で働いている姿を想像して就活を行う」ということです。私は県内に就職したいという希望を持っていたが、受ける企業をどの様に選べばいいのかを悩んでいました。



先輩から就活アドバイスを受ける様子

そのことを相談すると、先ほどのアドバイスをいただいた訳です。これには、目から鱗が落ちました。それは、いつのまにか入社することが目的となり、入社後のことを想像して企業を選んでいなかったことに気付かされたためです。これからは将来のことを見据え、自分が入社後にどうしたいのか、また、企業に対して何が貢献できるのかということを十分に考え、受ける企業を選んでいきたいと思いました。



先輩から就活アドバイスを受ける様子

今回キャリアCaféに参加させて頂き、先輩方と話すことで働くということに関して具体的なイメージを持つことが出来ました。先輩方からいただいたアドバイスや情報を生かし、希望する企業に入れるように努めていきたいと思っています。

山形大学大学歌

作詞：石先 麻美・難波 千鶴
作曲：大谷 靖夫
編曲：中村 康就

山形大学大学歌は、平成21年に創立60周年を記念し、歌詞の募集を行い、当時地域教育文化学部4年在学中の石先麻美さんと難波千鶴さんの作品が選ばれました。作曲は山形市出身の作曲家大谷靖夫氏に依頼し、平成22年3月に本学大学歌として制定されました。

※この事業は校友会の支援により実施されました。



大学歌
ダウンロードは
こちら

大学のホームページからも
ダウンロードができます。

1 春風に 希望のをせて
桜の光 仰ぎ見る
若葉の緑 きらめいて
力みなぎる 若き瞳
決意を胸に 手をつなぐ
我らが学び舎 山形大学

2 知を深く 真理を求め
語りあかそう 集い来て
星のまたたき 想い馳せ
学びを拓く 強き瞳
己を信じ 進みゆく
我らが学び舎 山形大学

3 はるかなる 未来を照らし
流れる川の 絶え間なく
日々を彩る 雪模様
次代を担う 明き瞳
夢を抱いて はばたこう
我らが学び舎 山形大学

山形大学学生歌「みどり樹に」

作詞：菅原 威
作曲：橋場 富蔵

山形大学学生歌「みどり樹に」は、昭和33年全寮々歌として現在でも永く歌い継がれている学生歌です。

宮下(旧姓・菅原)威さんの作詞、「歌いやすい旋律」をめざして作曲されたのは橋場富蔵さん。お二人とも旧教育学部の卒業生です。

※「山形大学大学歌」と学生歌「みどり樹に」は、YouTubeでもお聴きいただくことができます。

1 みどり樹に 風がながれるように
さわやかな 若人のうたごえ
遠く海を越えて ひびくよ
世界の果まで われらの歌う 口唇に
友情の血潮は あふれる

2 大地から 草が萌えるように
たくましい 若人の生命は
高く峰を越えて
世界の果まで のびゆく
われらの輝く ひとみには
平和のねがい みなぎる

3 大空に陽が 輝くように
かぎりない 若人の夢は
はるか雲を越えて
世界の果まで とどくよ
結んだ腕で 新しい
未来を築く われらよ

校友会への入会案内

山形大学校友会に未だ加入されていない 卒業生の皆さまへ(お願い)

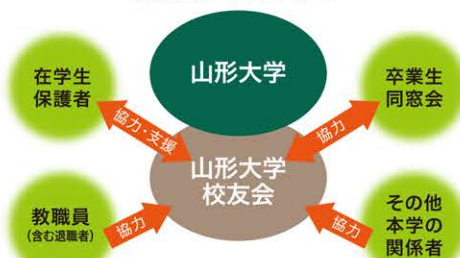
校友会は、本学学生の修学、課外活動及び就職活動並びに全学的なキャンパス間の交流活動の支援を行うとともに、会員相互の親交を図り「山形大学コミュニティ」の醸成や強化に資するために様々な事業を展開しております。

具体的な事業は、会報で広報しているとおりですが、これらの事業は、本学の在学生、卒業生、役員、教職員及び本会の趣旨に賛同していただいた会員からの生涯会費(10,000円)により実施させていただいております。

ついては、より多くの皆さまに、是非ご加入をお願い申し上げます。

会員(除く入学時加入会員)の方には、定期的に校友会会報や大学の様々な広報誌を送付させていただいております。

..... 山形大学コミュニティ



入会申込手続き: 払込取扱票に必要事項をご記入いただき、『郵便為替』により生涯会費1万円をお振り込みください。
(払込取扱票は、校友会事務局にありますので、ご連絡ください。)

入 会 日: 会費の納入により入会とさせていただきます。

メルマガ発信のお知らせ及び 山形大学や学生への 応援メッセージ寄稿のお願い

- 校友会では、山形大学や校友会に関する様々な情報を提供するために、校友会メールマガジン「みどり樹通信」を毎月配信しています。
メールマガジンは、校友会ホームページ上から簡単に申し込みができます。

メールマガジン

■山形大学校友会メールマガジン登録

「山形大学校友会メールマガジン」への登録を行います。
入力いただいた個人情報は、メールマガジンの配信のみに使用し、他の目的には使用いたしません。
山形大学校友会における個人情報の取扱いについては、「個人情報の取り扱いについて」をご確認ください。
上記内容について同意いただき、下の登録ボタンからメールマガジンの登録を行ってください。

同意して登録

- 卒業生の皆さまからの寄稿を広く募集しています。山形大学や在学生への応援メッセージ、学生時代の思い出など何でも結構です。
※ご寄稿いただける場合は、校友会事務局までお知らせください。

編集後記

校友会は、設立13年目に入り、在学生及び卒業生の皆さまにも認知度を上げていただけるようになり大変感謝いたします。これからも学生支援及び卒業生交流活動に併せて在学生と卒業生の交流にも力を入れていきたいと考えております。

卒業生の方で校友会に未だ入会されていない方には、この機会に入会していただき、より身近な母校を感じていただくとともに母校の応援団になっていただきたいと存じます。

また、校友会事務局もこの4月から職員が大幅に変わります。引き続き校友会をよろしくお願いいたします。

山形大学エンrollment・マネジメント部

山形大学校友会事務局

〒990-8560 山形市小白川町1丁目4-12

TEL:023 (628) 4867 FAX:023 (628) 4185 E-mail:ykouyu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

〈校友会ホームページ〉 <http://www.yamagata-u.ac.jp/ykouyu/>



校友会 HP



Twitter
@YUkoyukai